

平成27年度内閣府 地震・津波防災訓練 【北海道日高町】

実施報告書
(概要版)



 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan

11.5日 津波防災の日



しんじょう君



もつちいおっさん



ふなっしー



くまモン



まいちゃん

津波防災 ひろめ隊
2015-2016

わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを多くのみなさんにひろめるお手伝いをします。

実施概要

北海道日高町について

日高町（ひだかちょう）は、日高管内の西部に位置し、日高山脈の麓に広がる森と清流の日高地区と、牧場の向こうに太平洋が広がる門別地区からなります。

人口は約12,600人、総面積約993km²のエリアに山と海の地域特性が数多く輝いています。

今回の訓練を行った門別地区では、特にサラブレッドなどの軽種馬生産が盛んで数々の名馬を輩出しました。また、季節により「ししゃも」を始めとする新鮮な海の幸の宝庫でもあります。現在、日高町では、「健やかで、安心して暮らせるまちづくり」の方針の下、富川東防災広場の新設を始め、様々な防災対策に取り組んでいます。



出典：日高町ホームページ

訓練概要

■訓練想定：11月5日午前10時に、十勝沖を震源とするM8.0の大規模な地震が発生、日高町では震度6弱を記録。地震発生直後から津波警報が発表された。日高町は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。日高町の沿岸地域では、最大9mの津波が押し寄せ、家屋流出や浸水等の被害が発生した。

■実施日時：平成27年11月5日（木）10：00～13：00

シェイクアウト訓練、津波避難訓練	10：00～10：30
情報伝達・避難誘導・安否確認訓練	10：05～10：30
避難所開設・運営訓練	10：10～12：30
ヘリコプターによる訓練、装備品展示	11：00～12：30
炊き出し訓練	10：10～12：30
津波防災啓発イベント	12：30～13：00

■主 催：内閣府、日高町（協力：北海道）

■参加者数：約730名（※防災関係機関等を含む）

■参加機関：各地区の自治会・自主防災組織、わかば保育所地元企業、門別警察署、日高西部消防組合消防本部・消防署 陸上自衛隊第7特科連隊第3大隊、第7飛行隊等

訓練報告

当日の訓練内容

09:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取り組みに重点を置いたシェイクアウト訓練を富川・門別本町・厚賀の各地区で、「自助」と相互に助け合う「共助」の取り組みに重点を置いた津波避難訓練を8箇所の一時的避難場所で行い、発災から津波襲来までの避難行動について確認した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



10:10～ 避難所開設・運営訓練

自主防災組織が主体となって、門別総合町民センターに避難所を開設するとともに、日高町の防災備蓄用品の取扱い要領等を実習した。また、約200名の訓練参加者を避難者として、受付・誘導等の避難所運営を行い、避難所に必要な各機能等について体験・確認した。

▼避難所の開設



▼避難所の運営（受付）



11:00～ ヘリコプターによる訓練、装備品展示

陸上自衛隊ヘリにより、緊急に必要な物資を富川東防災広場ヘリポートに空輸して町職員・消防への引き継ぎ訓練を行った。また、訓練参加者が同広場で装備品等を見学した。本訓練により新設した富川東防災広場が有効に活用できることを確認した。

▼物資搬送



▼装備品等の見学



10:10～ 炊き出し訓練、12:30～ 津波防災啓発イベント

門別総合町民センターにおいて、陸上自衛隊炊事班がカレーを炊き出し、自主防災組織等が配食・臨時食堂の運営を行う等、被災者への配慮を考えた訓練を行った。また、防災啓発イベントには多くの町民が参加し、津波避難ポーズを体験する等、地震・津波防災に関する意識の高揚を図った。

▼炊き出し訓練



▼津波避難ポーズ

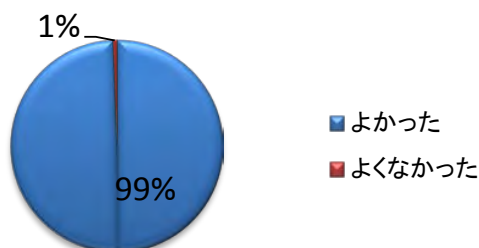


今後に向けた課題

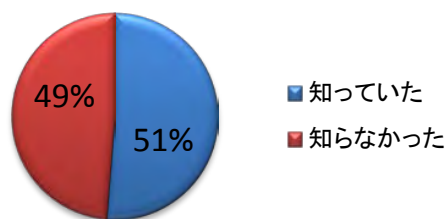
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：181人）

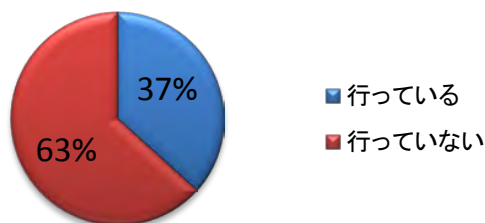
問 訓練に参加してどう思いましたか？
（回答数：181人）



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：158人）



問 地震等に備えて、食料・水・非常用持ち出し袋等を準備していますか？（回答数：158人）



訓練の評価

訓練当日は、快晴・温暖な天候に恵まれ、保育所の幼児や地域住民等を含め約600名、防災関係機関等の要員約130名の合計約730名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、内閣府・日高町長の訓練講評、職員等による所見、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。

この結果、「大変よい訓練だった」、「避難所のイメージが実感できた」、「富川東防災広場のような施設があると災害時に頼もしく感じる」という評価の一方で、次のような課題が指摘された。

- 今回は健常者の避難が主体であったが、実災害時には、様々な理由により避難に際し援助の手を必要とする方がいる。今後は、避難の支援体制等を含め、更に訓練を行っていく必要がある。また、昼夜や、様々な天候・季節（冬季の雪）における訓練も必要である。
- 今回は門別総合町民センターに避難所を開設したが、各地区の施設に避難所を開設・運営するための訓練が必要である。また、今後、今回の訓練のノウハウを生かして、避難所の事前準備をより充実させていく必要がある。

平成27年度内閣府 地震・津波防災訓練 【青森県むつ市】

実施報告書
(概要版)



 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan

11.5日 津波防災の日



しんじょう ちんちんいあーまん ちんちんいあーまん くまちゃん まいちゃん

津波防災 ひろめ隊
2015-2016

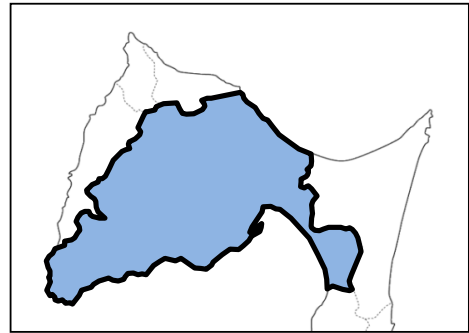
わたしたちが当地キャラクターが、津波防災の取り組みを
多くの方々にひろめるお手伝いをします。

実施概要

青森県むつ市について

下北地方の政治、経済、交通の中心地として成長してきた田名部町と、海軍水雷団の設置から自衛隊の基地として発展を遂げた大湊町は、下北地方の中核都市として人口10万人の田園工業都市を目指し、昭和34年9月1日に「大湊田名部市」として合併し、翌年の8月1日に全国初のひらがなの市「むつ市」に改称しました。

平成17年3月14日には、ホタテ養殖等の漁業を中心としたまちづくりを進めてきた川内町、室町時代から続いているヒバ材搬出等の林業及びイカを中心とした漁業等によりまちづくりを進めてきた大畑町、タラとともに歩みまちづくりを進めてきた脇野沢村の3町村と合併し、新しい「むつ市」となりました。面積は青森県全体の約9%にあたる約864平方キロメートル、人口は60,839人（平成27年10月31日現在）です。



出典：むつ市ホームページ

訓練概要

■訓練想定：10月31日（土）午前9時、青森県東方沖を震源とするM7.9の地震が発生し、むつ市（気象庁観測所）では震度6弱、大畑地区（文部科学省観測所）では5強を観測、大畑地区では、52分後に4.2m、関根地区では55分後に5.1mの津波の到達が予想される。むつ市は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。

■実施日時：平成27年10月31日（木）09：00～12：00

シェイクアウト訓練、津波避難訓練	09：00～09：40
炊き出し訓練、住民初動対応訓練等	07：00～12：00
避難所開設・運営訓練、物資輸送訓練等	09：00～11：30
座屈建物からの救出・救助訓練等	11：20～11：40
漂流者搜索・救助訓練等	11：40～11：50
津波防災啓発イベント	10：00～10：30

■主催：内閣府、青森県、むつ市

■参加者数：1,186名（※防災関係機関等を含む）

■参加機関：大畑・関根地区町内会、大畑小学校、コスモス幼稚園、大畑漁業協同組合、青森県隊友会下北地区協議会、むつ市大畑地区連合婦人会、日本赤十字社青森県支部、その他防災関係機関等

訓練報告

当日の訓練内容

09:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取り組みに重点を置いたシェイクアウト訓練及び「自助」と相互に助け合う「共助」の取り組みに重点を置いた津波避難訓練を大畑・関根地区町内会、大畑小学校、コスモス幼稚園及び大畑漁協等が行い、発災から津波襲来までの避難行動について確認した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



07:00～ 炊き出し訓練、住民初動対応訓練

むつ市大畑地区連合婦人会、大畑分区赤十字奉仕団及び航空自衛隊により、おにぎり・豚汁の炊き出しを行い、訓練参加者等が試食した。また、住民初動対応訓練（初期消火訓練）においては、小学生等が消火器による消火要領を体験し、防災に関する意識の高揚を図った。

▼炊き出しの試食



▼初期消火訓練



09:00～ 避難所開設・運営訓練

町内会役員等を対象に避難所運営要員としての避難所開設・運営の基本的事項に関する講習を実施するとともに、約30名の避難所体験希望者を避難者役として、受付・誘導等の模擬避難所運営を行い、避難所用品等の取扱要領について体験・実習した。

▼町内会に対する講義



▼避難所用品の取扱い



11:20～ 座屈建物からの救出訓練、漂流者救助訓練

地震動により座屈した建物内部に取り残された負傷者等を巡回中の自主防災会（隊友会）が発見、消防及び陸上自衛隊と協同して救出・救助にあたり、応急救護所に負傷者を搬送した。

また海上自衛隊が空海から海上漂流者を捜索・発見し、救助を行う等、各防災関係機関が救出・救助要領を披露した。

▼座屈建物からの救出訓練



▼漂流者救助訓練

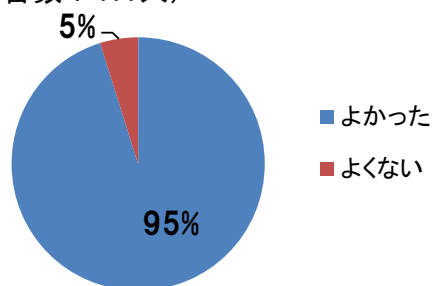


今後に向けた課題

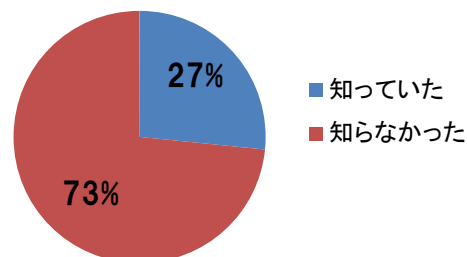
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：426名）

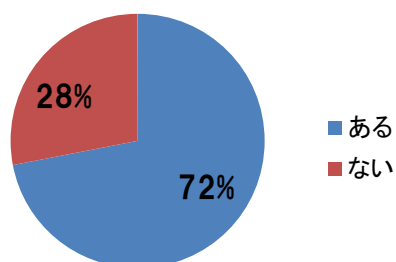
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：411人）



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：425人）



問 ハザードマップを見たことがありますか？（回答数：196人）



訓練の評価

訓練当日は、時々雨がぱらつく肌寒い天候であったが、地域住民、小学生、幼稚園児及び漁協職員等、689名、市職員及び防災関係機関等、497名の合計1,186名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、市職員等の所見、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。

この結果、例年の防災訓練より参加者が多く「防災意識を啓発できた」という評価の一方で、次のような課題が明らかになった。

- 今回の津波避難訓練においては、町内会単位で一時避難場所を選定させていたが徒歩で避難することを前提としていたためか、津波浸水予想地域内に所在する一時避難場所もあり、実際的な訓練ができなかった。町内会の訓練参加者の89%が60歳以上であることを考慮すると避難の手段（車両乗り合せ）や垂直避難場所の選定等、より実際的な避難要領を検討すべきである。
- 市担当者の発意で避難時に避難完了目印として「白いタオル」の掲示をよびかけたが、実施率約45%に止まり、訓練参加者の参画は、やや低調であった。

平成27年度内閣府 地震・津波防災訓練 【茨城県日立市】

実施報告書
(概要版)



 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan

11.5日 津波防災の日



津波防災 ひろめ隊
2015-2016

わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを
多くのみなさんにひろめるお手伝いをします。

実施概要

茨城県日立市について

日立市は、豊かな関東平野の北端、茨城県の北東部にあり、南北25.9km、東西17.9km、面積225.71km²を有しています。西は阿武隈山系に連なり、東は起伏に富んだ太平洋の海岸線を臨み、穏やかな気候、山・海の豊かな自然環境に恵まれています。明治時代から、鉱業、電気機械産業を中心とする近代産業が発展し、日本有数の工業都市として成長してきました。本市には、長い歴史を物語る貴重な文化遺産が数多くあり、先人たちの確かな息づかいを今に伝えています。また、南北に続く海岸線には6つの海水浴場があり、奥日立きららの里、かみね公園など四季を通じて人々が集う生き生きとした県北の交流拠点でもあります。



出典：日立市勢要覧

訓練概要

■訓練想定：11月7日午前9時30分に、茨城県沖を震源とするM8.4の大規模な地震が発生、日立市周辺では震度6強を記録、地震発生直後より津波警報が発表された。日立市は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。日立市沿岸地域には、午前9時55分頃に津高約5mの津波が到達する見込みとされた。

■実施日時：平成27年11月7日（土）09：30～12：00

シェイクアウト訓練、	
住民等津波避難訓練、情報伝達訓練	09：30～10：30
避難所開設及び運営訓練	09：35～10：30
各種訓練（各自主防災組織の企画）	10：30～12：00

■主催：内閣府、日立市（共催：茨城県）

■参加者数：4,136名

■参加機関：各地区の自主防災組織、地元企業、茨城県警察本部、日立警察署、陸上自衛隊施設教導隊、茨城県防災航空隊、地元小学校・中学校

訓練報告

当日の訓練内容

09:30～ シェイクアウト訓練

地震が発生した際の安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かない」を身につけるため、市内に居住又は通勤・通学する者全員を対象としシェイクアウト訓練を行った。

▼シェイクアウト訓練（小学校）



09:35～ 住民等津波避難訓練

津波からの避難要領を確認するため、沿岸部に居住又は勤務する者による避難訓練を行った。

▼避難訓練 （旭町避難階段）



▼避難訓練 （留町津波避難場所）



09:35～ 避難所開設及び運営訓練

避難所の開設及び運営要領を確認するため、市職員、自主防災組織及び学校が協力し、避難所の開設及び運営訓練を行った。

▼避難所の開設及び運営



10:30～ 自主防災組織の企画による訓練

訓練参加者のさらなる防災意識の高揚及び技能の向上を図るため、各自主防災組織（日高学区、中小路学区、大沼学区、坂下地区）の企画による訓練（煙道体験、救助訓練、消火訓練、炊出し訓練等）を行った。

▼救助訓練



▼消火訓練

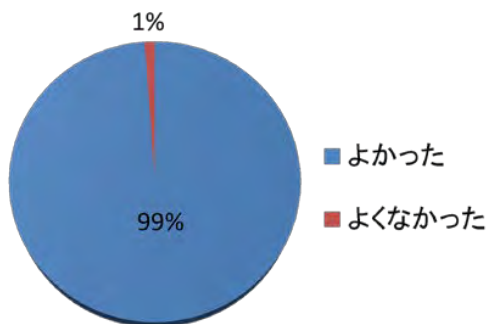


今後に向けた課題

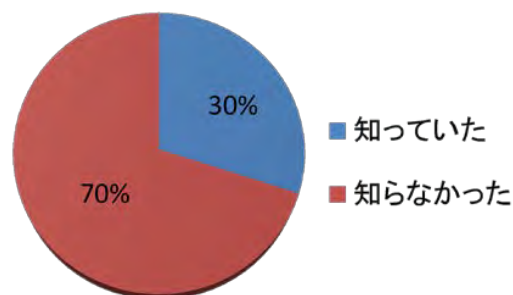
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取り組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：1,632人）

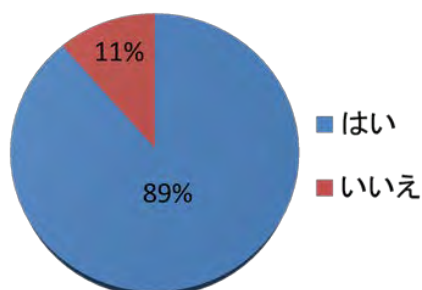
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：1,611人）



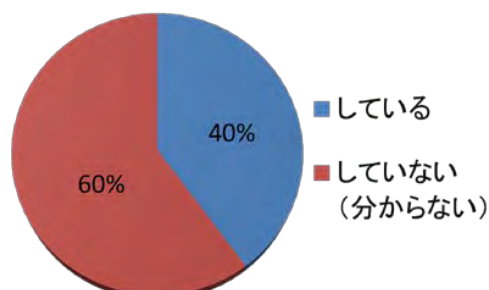
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：1,548人）



問 地震がきたら、まず高いところへ逃げようと思いましたか？（回答数：1,587人）



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等を準備していますか？（回答数：1,538人）



訓練の評価

訓練当日は、天候にも恵まれ、小学生を含め、企業や地域住民等を合わせ4,136名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、内閣府・日立市長の訓練講評の後、住民には訓練場所で、小学生には教室（授業の一環として訓練に参加）でアンケート調査を行い、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。

この結果、「いざという時のために良かった」、「毎年定期的にやるべきである」という評価の一方で、次のような提言や指摘が出された。

- 目の不自由な方や障害のある方を含めた訓練を行うべきである。
- 各地区での訓練内容をもう少し標準化し、各地区の自主性はもとより、もう少しやらねばならぬ項目をいくつか実行して欲しい。
- 更に多くの方々に参加を呼び掛けて欲しい。

平成 27 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【福井県福井市】

実施報告書
(概要版)



 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan

11月5日は津波防災の日



津波防災 ひろめ隊
2015-2016

わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを多くのみなさんにひろめるお手伝いをします。

実施概要

福井県福井市について

福井市（ふくいし）は、福井県北部に位置しており、九頭竜、足羽、日野の三大河川の扇状地である福井平野に発展してきました。

人口は約266,701人（平成27年12月1日現在）、総面積約536.41km²で、これまで福井大空襲、福井地震と大災厄に二度見舞われながらも当時の倍以上の人口にまで復興したことから、不死鳥を街のシンボルとしています。



出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：平成27年11月8日（日）午前8時00分、福井県嶺北北部沖を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生、福井市では最大震度7を観測し、家屋の倒壊や土砂崩れ、各河川の堤防崩壊など多くの被害が認められ、また、福井県域に大津波警報が発令された。特に、市沿岸部の越廼地区からの被害情報が多く寄せられており、本市の防災力だけでは対応が困難なため、防災関係機関に対し応援を要請した。

■実施日時：平成27年11月8日（日）8：00～11：00

シェイクアウト訓練	8：00～ 8：03
津波避難訓練	8：05～ 8：25
倒壊建物救出救助訓練	9：25～ 9：40
住民体験訓練・展示コーナー・	
避難所開設運営訓練	9：40～10：40
津波漂流者救出救助訓練	10：40～10：55

■主催：内閣府、福井市

■参加者数：2,328名（※関係機関含む）

■参加機関：近畿地方整備局福井河川国道事務所、福井海上保安署、福井地方气象台、自衛隊福井地方協力本部、陸上自衛隊第14普通科連隊、陸上自衛隊第372施設中隊、福井県防災航空事務所、福井南警察署、敦賀警察署、福井県警察本部警備部機動隊、福井市消防局、福井市消防団、日本放送協会福井放送局、越廼漁業協同組合、福井市防犯隊、日本赤十字社福井県支部、福井市赤十字奉仕団越廼分団、越廼地区女性部、福井西商工会越廼支所、福井市災害ボランティアセンター連絡会、こしの渚苑、福井新聞、日刊県民福井、越廼中学校、越廼小学校、曙保育園、4地区自主防災組織連絡協議会、4地区自治会連合会、4地区公民館

訓練報告

当日の訓練内容

08:00～ シェイクアウト訓練・津波避難訓練

震度7の大地震が発生したことを想定し、市沿岸部を対象にしたシェイクアウト訓練を実施した。その後、住民は最寄りの津波避難場所へ避難を実施した。津波避難場所では、市職員と自治会長等が協力して、避難者数の確認を行った。

▼津波避難訓練の様子（左：越廼地区、右：鷹巣地区）



9:10～ 倒壊建物救出救助訓練

消防職員・団員と自衛隊員で倒壊建物の下敷きになった負傷者を協力して救出救助する訓練を実施した。災害に対する防災体制の連携、強化を図った。

▼倒壊建物救出救助訓練の様子



9:40～ 住民体験訓練・展示コーナー・避難所開設運営訓練

メイン会場である栞崎漁港周辺にて、炊き出し訓練等10種の住民体験訓練、パネル展示や津波防災イベント等の展示コーナー、仮設トイレや間仕切りの設営等の避難所開設運営訓練を実施し、地震・津波防災に関する意識の高揚を図った。

▼炊き出し訓練の様子



▼津波避難ポーズ



10:40～ 津波漂流者救出救助訓練

防災ヘリ等を用いて津波により被災した漂流者を消防職員が救出・救助する津波漂流者救出救助訓練を実施した。

▼津波漂流者救出救助訓練

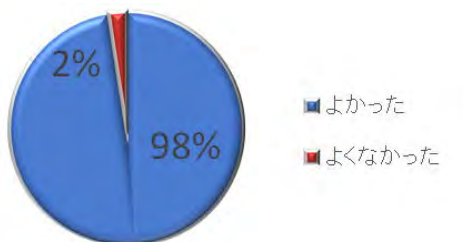


今後に向けた課題

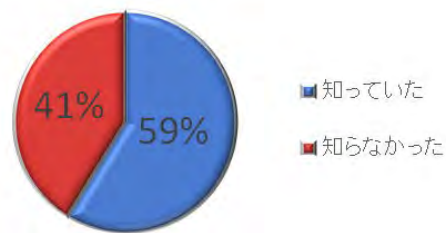
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数：1,560人)

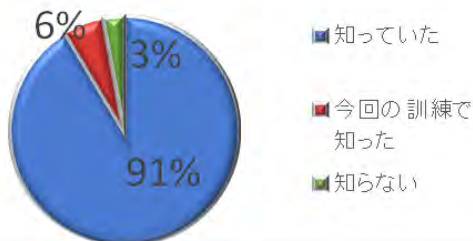
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
(回答数：1,465人)



問 11月5日が「津波防災の日」であることを
知っていますか？(回答数：1,521人)



問 自宅からの津波避難経路を
知っていますか？(回答数：1,514人)



訓練の評価

訓練当日は雨や強風にも見舞われたが、沿岸部4地区（越廼、国見、鷹巣、棗）、防災関係機関等を含め合計2,328名が訓練に参加した。沿岸部4地区における本訓練では、次のような点が評価できる。

- 福井市では津波対策に特化した訓練は毎年実施してはならず、本訓練が津波に関する知識を習得する良い機会となった。
- 荒天の中、地域住民、自主防災組織、防災関係者が一体となって、避難訓練を実施し、知識の習得とともに意識の高揚を図れた点が評価できる。また、多くの機関、団体との連携、各地区への事前説明会などを含め総合的な防災体制を確立できた点も評価できる。

一方で、次のような課題が指摘された。

- 高齢者等の避難行動要支援者は、津波避難に時間がかかる可能性があるため、今後は避難支援のあり方を検証する訓練が必要である。
- 今回の訓練はより多くの人々の参加を見込んで休日に開催したが、街なかの人々の生活が大きく変わる平日の訓練も今後必要である。
- 訓練では防災無線を活用して避難の呼びかけを行ったが、屋内では聞き取りにくい場合があり、地震の際に大きな揺れが収まったら直ちに高台へ避難する啓発をしていく必要がある。

平成 27 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【静岡県東伊豆町】

実施報告書
(概要版)



 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan

11月5日は津波防災の日



津波防災 ひろめ隊
2015-2016

わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを
多くの方々にひろめるお手伝いをします。

実施概要

静岡県東伊豆町について

東伊豆町（ひがしいずちょう）は、伊豆半島東海岸中央部に位置しており、天城山系から連なる山地を背にして北部は伊東市、西部は伊豆市と接しており、南部は河津町と接し、東は相模灘に面しています。

人口は13,144人（平成27年3月末現在）、総面積約77.86km²で、風光明媚な地形及び温暖な気候から観光シーズンには旅館、保養施設などに多くの観光客が訪れます。

今回訓練を行った稲取地区では、年に4回、津波防災訓練を含めた各種防災訓練を行っており、行政、住民ともに高い意識をもって防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：平成27年11月8日（日）午前9時、「静岡県第4次地震被害想定」に基づく、最大クラスの地震が発生。東伊豆町では最大震度6弱を観測し、家屋の一部では倒壊等の被害が発生し、静岡県全域に大津波警報が発表された。町民らは地震発生による身体防御行動の後、津波避難場所への避難行動を開始した。津波は地震発生6分後に第一波を観測し、最終的に最大津波高14mを観測した。
- 実施日時：平成27年11月8日（日）9：00～12：00
 - シェイクアウト訓練 9：00～ 9：05
 - 津波避難・安否確認訓練 9：05～09：20
 - 防災講演会 10：00～10：50
 - 防災展示、防災クイズラリー 10：50～11：30
 - 津波防災啓発イベント 11：30～12：00
- 主催：内閣府、東伊豆町（共催：静岡県）
- 参加者数：554名
- 参加機関：静岡県、自主防災組織、東伊豆町消防署、東伊豆町消防団、下田警察署、陸上自衛隊静岡地方協力本部、防災資機材関係企業、稲取温泉旅館協同組合、稲取高等学校ボランティア部等

訓練報告

当日の訓練内容

09:00～ シェイクアウト訓練

9時の地震発生とともに、地震の揺れから身を守る行動をとるシェイクアウト訓練を行った。

稲取地区の各家庭、町役場だけでなく、稲取温泉旅館協同組合の協力を得て、宿泊施設においてもシェイクアウト訓練を実施した。

▼シェイクアウト訓練（左：宿泊施設、右：町役場）



9:05～ 津波避難・安否確認訓練

自主防災組織が主体となって、自治会ごとに最寄りの第1避難地・避難場所へ一次避難を実施した。各自治会の避難対策に応じ、民間津波避難ビルへの避難や災害時要援護者への避難支援訓練等も実施した。一次避難先では、名簿等を用いた安否確認訓練が行われた。

▼津波避難訓練



▼安否確認訓練



10:00～ 防災講演会

自治会ごとにメイン会場へ集合した後、専門家による防災講演会を行った。

講演では、自助・避難所生活の知恵・アイデアについて、事例や実演を交えながら紹介し、地震・津波防災に関する日頃からの対策を呼びかけた。

▼防災講演会の様子



10:50～ 防災展示・防災クイズラリー、11:30～ 津波防災啓発イベント

各参加機関による防災展示や、高校ボランティア部生徒による自助のアイデアに関する実演等を行った。また、訓練後は津波防災啓発イベントを実施し、プロのMCやご当地アイドル、静岡県のゆるキャラふじっぴーが津波避難ポーズを紹介するなど、住民の防災意識の高揚を図った。

▼実演見学の様子



▼津波避難ポーズ



今後に向けた課題

アンケート結果

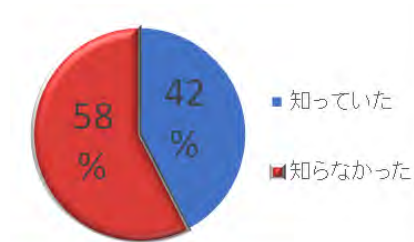
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数：187人)

問 訓練に参加して、どう思いましたか？

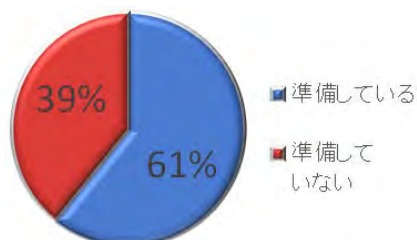
(回答数：162人)



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？(回答数：177人)



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等を準備していますか？(回答数：176人)



訓練の評価

訓練当日はあいにくの雨天であったが、当初の見込み参加者数の600人とほぼ同規模の参加者が、メイン会場にて熱心に防災に関する知識学習を行った。稲取地区における本訓練では、次のような点が評価できる。

○これまで稲取地区では避難訓練が中心であったが、知識学習の要素（講演、実演）を取り入れたほか、関係機関の展示協力も得、参加者には学習効果の大きい訓練となった。

○地元の高校生も指導者として参画し、地域の連携を深めることができた。

また、講演者による訓練全体に対する評価や、訓練参加者からの意見として、「熱心な参加者が多かった」「訓練に参加してよかった」、「地域の団結を実感できた」、「すぐに実践できる防災対策を知ることができて良かった」といった評価を得ることができた。

一方で、次のような課題が指摘された。

●地震は動きやすい時間に来るとは限らないため、早朝訓練や夜間訓練等を行う必要がある。

平成 27 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【兵庫県香美町】

実施報告書
(概要版)



 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan



実施概要

兵庫県香美町について

香美町（かみちょう）は、兵庫県の日本海側に位置し、海に面した香住区、山に面した村岡区・小代区からなります。

人口は約19,100人、総面積約369km²のエリアに山と海の地域特性が数多くあります。今回の訓練を行った香住区は、季節により「松葉ガニ」をはじめとする新鮮な海の幸の宝庫でもあります。

現在、香美町では、「安全・安心な生活環境を育むまちづくり」を町総合計画の基本理念に掲げ、毎年全集落が同時に行っている町総合防災訓練をはじめ、様々な防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月8日（日）午前9時に、震度6弱の地震が発生。香住区の沿岸地域では、約3mの津波が予想された。香美町は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。
- 実施日時：平成27年11月8日（日）9：00～12：00
 - シェイクアウト訓練、津波避難訓練 9：00～9：30
 - 避難所開設訓練 9：30～10：00
 - 合同防災訓練・体験・見学 10：00～11：00
 - 防災講演会 11：00～12：00
- 主催：内閣府、香美町
- 参加者数：600名（※参加機関を含む。）
- 参加機関：香住自治区、西香住区、七日市区の自主防災組織、香美町消防団、美方広域消防本部、美方警察署、香美町社会福祉協議会、香住調理ボランティア、香美町赤十字奉仕団、陸上自衛隊姫路駐屯地、香美町防災士連絡会

訓練報告

当日の訓練内容

09:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取り組みに重点を置いたシェイクアウト訓練を各家庭で、「自助」と相互に助け合う「共助」の取り組みに重点を置いた津波避難訓練を4箇所の避難場所で行い、発災から津波到達までの避難行動について確認した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



9:30～ 避難所開設訓練

町災害対策本部が無線にて、各避難場所の避難者数を確認した。その後、香住小学校体育館においては避難所を開設し、香住小学校に避難した住民を受付する訓練を実施した。

▼町災害対策本部



▼避難所の開設（受付）



10:00～ 合同防災訓練・体験・見学

香住小学校グラウンドにおいて、応急救護所設置・運営訓練、自動車救助訓練、炊き出し訓練を行い、香住小学校体育館において東日本大震災当時のパネル展示を行い、訓練の体験・見学により参加者の地震・津波防災に対する意識の高揚を図った。

▼自動車救助訓練



▼応急救護所設置・運営訓練



11:00～ 防災講演会、給食、防災・啓発グッズの提供

香住小学校体育館において、元消防職員で東日本大震災の経験者でもある佐藤敬一氏による防災講演会を行い、経験を基にした話から地震・津波防災に対する意識の高揚を図った。

▼防災講演会



▼炊き出し訓練



今後に向けた課題

アンケート結果

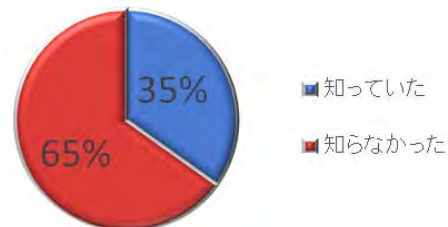
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数：201人)

問 訓練に参加して、どう思いましたか？

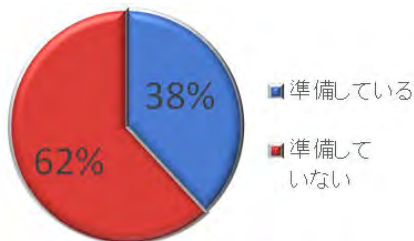
(回答数：188人)



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？(回答数：198人)



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等を準備していますか？(回答数：197人)



訓練の評価

訓練当日は、小雨のためヘリコプターを使用した訓練は中止となったが、自主防災組織（地域住民）と参加機関等を合わせ約600名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、自主防災組織及び参加機関の代表による反省会における意見、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災・減災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。この結果、本訓練は以下のように評価できるものであったといえる。

- 地域住民からは「参加して良かった」という意見が大半を占め、今回の訓練は地震・津波防災の一連の行動を学ぶ効果的な機会となった。
- 参加した機関では、複数が同時に連携して訓練に臨む意義が理解された。
- 訓練準備段階では、役場からの協力呼びかけにより関係機関によるチームワークができ、今後の訓練の継続の土台を構築できた。

また、次のような課題が指摘された。

- 災害対策本部設置訓練を通じて、役場と現地との連絡体制を具体的に検討すべきことが明らかになり、今後は、災害対策本部の役割と関係機関等の連携を検証する訓練も必要である。
- 応急救護所設置・運営訓練は、今回は初步段階として見学形式としたが、今後は負傷者の手当方法の解説や実演体験を加えるなど、自助・共助の実効性の向上を見据えた訓練へ発展させる必要がある。
- 香美町は海水浴場を有するなど観光客の滞在者も多いことから、今後は観光客の訓練参加の盛り込みを考えていく必要がある。

平成 27 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【鳥取県鳥取市】

実施報告書
(概要版)



 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan

11月5日は津波防災の日



津波防災 ひろめ隊
2015-2016

わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを多くのみなさんにひろめるお手伝いをします。

実施概要

鳥取市賀露地区について

鳥取市は、中国山地から日本海へ北流する千代川流域に拓けた鳥取平野に城下町として生まれ、江戸時代は鳥取藩池田家32万石の城下町として栄えました。明治22年10月1日市制を施行し、以来県都として、また、山陰地方東部の中核都市として政治、経済、文化の中心となり発展をしてきました。人口は192,017人（平成27年11月末現在）、総面積は765.3km²で、日本一の鳥取大砂丘を有し、多くの観光客で賑わいます。

賀露地区は鳥取港に隣接し、新鮮な魚介類が楽しめる飲食店や市場などの商業施設があります。住宅地は急傾斜に位置し、鳥取市内の中で地震・津波防災への意識が非常に高い地区です。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：平成27年11月1日（日）午前10時、鳥取沖東部断層を震源とするマグニチュード7の地震が発生し、鳥取市において最大震度7の揺れを観測した。鳥取県全域に大津波警報が発表され、地震発生15分後に高さ10mの津波が来襲した。
- 実施日時：平成27年11月1日（日）10：00～12：00
 - シェイクアウト訓練 10：00～10：05
 - オレンジフラッグ掲出訓練 //
 - 地震津波避難・安否確認訓練 10：05～10：40
 - 消防車両による避難広報訓練 //
- 主催：内閣府、鳥取市
- 参加者数：988名（※商業地区民間企業を含む）
- 参加機関：賀露地区自主防災会連絡協議会、賀露町内会
海上保安庁鳥取海上保安署、鳥取県漁業協同組合、鳥取県立とっとり賀露かっこ館、湖山消防署、鳥取市消防団賀露分団、(株)食のみやこ鳥取、賀露中央海鮮市場協同組合

訓練報告

訓練準備会議と当日の訓練内容

「訓練準備会議」の開催（5回）

7月から10月まで訓練当日（11月1日）に備え、賀露地区自治会のリーダーや住民を対象に「訓練準備会議」を開催。ワークショップ形式で地図を使った「まち」の構造の把握やタウンウォッチングによる区ごとの避難場所・避難経路の検討、危険箇所の発見方法や避難経路確認の視点などの学習を重ねた。

▼地域住民を対象にした訓練準備会議の様子



10:00～ シェイクアウト訓練

鳥取市は10時に防災行政無線で地震の発生、2分後に大津波警報の発表を放送。参加者は自宅など訓練実施時点で居合わせた場所で、地震の揺れから身を守る安全確保行動（姿勢を低くする、体や頭を守る、動かない）をとるシェイクアウト訓練を行った。

▼シェイクアウト訓練（賀露地区住民一般家庭）



10:00～ オレンジフラッグ掲出訓練

海上保安庁鳥取海上保安署で、鳥取港沖を航行中の船舶、漁船などに津波の来襲を知らせるオレンジフラッグ掲出訓練を実施した。また、鳥取市消防団賀露分団は消防車両を使った事前広報、避難広報訓練を実施した。

▼オレンジフラッグ掲出の様子



10:05～ 地震津波避難・安否確認訓練

「訓練準備会議」で区ごとに設定した11箇所の避難場所へ避難を実施した。避難場所では安否確認訓練を実施。賀露地区の民間商業施設では観光客の避難誘導訓練、車両を使った要支援者避難訓練も行った。

▼地震津波避難訓練



▼安否確認訓練



今後に向けた課題

アンケート結果

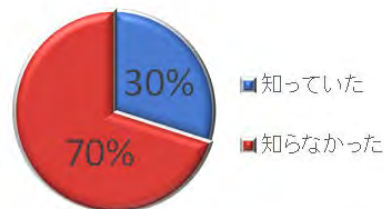
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数：314人)

問 訓練に参加して、どう思いましたか？

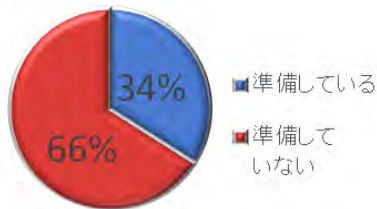
(回答数：288人)



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？(回答数：271人)



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等を準備していますか？(回答数：271人)



訓練の評価

訓練には事前に集約した予定参加者数の倍を超える988人の地域住民が参加した。訓練当日に備え、自治会のリーダー、地域住民を対象にした「訓練準備会議」(訓練の振り返りを含み5回開催)を行い、東日本大震災で助かった人の避難行動の共有やワークショップ形式での避難場所・避難経路の設定、設定した避難経路の危険箇所を確認するタウンウォッチングなどを実施し、地域住民自らが主体となった訓練をつくりあげた。本訓練では、次のような点が評価できる。

- 訓練準備会議の開催により、住民相互の助け合い、連携の強化の必要性を全員で認識でき、今回の訓練を、将来的な地震津波災害時の被害軽減をめざす防災意識の高揚を目的として実施することを共有した上で実施することができた。
- 民間の集客商業施設も初めて訓練に参加し、観光客の避難誘導、車両を使った要支援者の避難支援を実践し、今後の災害時対応マニュアルの整備の必要性を確認できた。
- 事前の訓練準備会議のプロセスを通じて、地域住民が主体となった継続的な勉強会、訓練などを今後も行っていく契機とできた。

一方で、次のような課題が指摘された。

- 地震は動きやすい昼間に来るとは限らないため、早朝訓練や夜間訓練などを行う必要がある。
- 高齢者などの要支援者の避難支援に着目した訓練を実施する必要がある。
- 住民の避難行動にあたり、防災行政無線が聞き取りにくい地区が存在した指摘があり、検証の必要性を認識できたとともに、大きな揺れが収まったら防災行政無線の呼びかけに依存せず直ちに高台へ避難する意識を啓発していく必要がある。

平成27年度内閣府 地震・津波防災訓練 【愛媛県西予市】

実施報告書
(概要版)



 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan

11.5日 津波防災の日



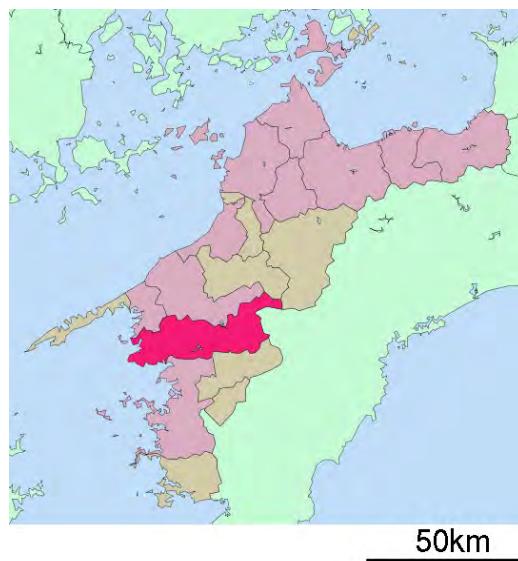
津波防災 ひろめ隊
2015-2016

わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを
多くのみなさんにひろめるお手伝いをします。

実施概要

愛媛県西予市について

西予市（せいよし）平成16年4月1日、東宇和郡の明浜町、宇和町、野村町、城川町及び西宇和郡三瓶町の5町が合併して誕生した人口40,426人（H27.12月末）、面積514.79km²のまちです。地勢は変化に富み、宇和海に面するリアス式海岸部、県南部の穀倉地帯でもある内陸盆地部、四国山地のカルスト台地につながる山間部と特色ある地域性を有し、その海拔高低差が1,400mに及ぶため、温暖で日照に恵まれた柑橘地帯から冷涼で冬季には積雪する酪農地帯まで、多様な気候と景観を有しています。



出典：西予市ホームページ

訓練概要

- 訓練想定：11月8日午前8時に、南海トラフを震源とするM9.1の大規模な地震が発生、西予市では震度7を記録。地震発生直後から大津波警報が発表された。西予市は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し、防災行政無線により津波からの避難を呼びかけた。西予市沿岸地域では、53分後に5m以上の津波が押し寄せ、家屋流出や浸水等の被害が発生した。
- 実施日時：平成27年11月8日（日）08：00～12：30
 - シェイクアウト訓練 08：00～08：05
 - 津波避難訓練 08：05～09：00
（孤立住民輸送訓練・救出救助訓練を含む）
 - ヘリによる負傷者救助訓練 09：30～11：00
 - 研修会・講演会 09：30～12：30
- 主催：内閣府、西予市
- 参加者数：約2,800名（うち、津波訓練参加者数2,500名）
- 参加機関：三瓶地区各自主防災会（19地区）、西予市消防団、西予市消防団三瓶方面隊、愛媛県警察本部、西予警察署、八幡浜地区施設事務組合消防署第三分署、陸上自衛隊第14旅団第14特科隊、海上保安庁第六管区本部・宇和島海上保安部、西予市社会福祉協議会等

訓練報告

当日の訓練内容

8:00～ シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、訓練参加者全員が、緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。

▼三瓶地区（みのり園）



8:05～ 津波避難訓練

防災行政無線による大津波警報の一斉放送を合図に、三瓶地区津波危険マップのとおり、地区内の津波避難場所に避難した。避難にあたっては、要支援者を介助しながら避難する姿も見られた。

▼津波避難場所への避難▼



09:30～ 孤立住民輸送訓練

下泊地区の主要な幹線が途絶した状況を想定し、海上からのアプローチにより、孤立した住民25名を安全な地区へ輸送し、市及び関係防災機関との連絡・調整要領について確認するとともに港湾施設に実際に着岸し、施設及び艦船能力について実証確認できた。

▼孤立住民乗船



▼巡視船から下船



09:30～12:30 研修会・講演会

住民自らが、緊急時の対応及び防災各種機材を体験、防災意識の向上と災害時の対応能力の向上が図られた。

また、語り部による講演会を行い東日本大震災の津波体験談を継承した。

▼心肺蘇生体験



▼語り部による講演会

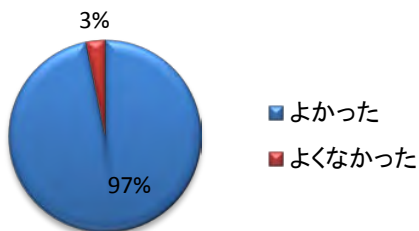


今後に向けた課題

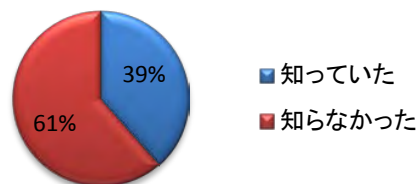
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：251人）

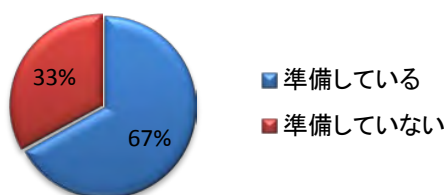
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：251人）



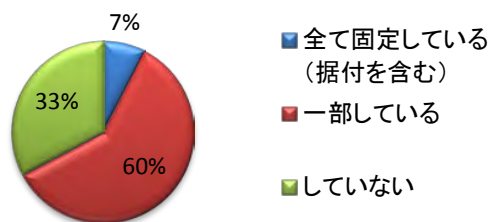
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：244人）



問 地震等に備えて、食料・水・非常用持出し袋等を準備していますか？
（回答数：242人）



問 ご自宅の家具は固定してありますか？
（回答数：241人）



訓練の評価

訓練当日は、天候が悪い中、西予市三瓶地区全域（19地区）住民は、従来から自主防災に対する意識も高いが当日も地区住民の3割以上（シイクアウト・津波避難訓練：約2,500/7,000人）が参加し、次のような意見があった。

このような訓練を積み重ねることにより、地域全体の繋がりで住民一人一人の命を守るという意識付けとなり、今後も自主防災組織が主体的に訓練に参画し、自らの地区を守っていくという意識の高揚を図れた。

●地区での他事業との連携

- ・平成27年度 災害時対応訓練事業（社会福祉協議会）との連携
 - ・愛媛県ワークショップ訓練（県南予津波被害防止支援事業）との連携
- 地域で暮らす住民、とりわけ高齢者や障害者など、援助を要する方々が災害時に安全に避難できる体制づくり推進のため、各主体や住民同士の繋がりを強化することができた。

●今後の取り組み

市長の講評において「避難路の整備や用具を整えることなど進めてきたが、ハード面の整備だけでは不十分、みんなで協力し合うことが大事」と協力して避難すること等、ソフト面の充実を図っていくことの大切さを呼びかけた。

平成27年度内閣府 地震・津波防災訓練 【福岡県苅田町】

実施報告書
(概要版)



 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan

11月5日 津波防災の日



しんじょう君



ちっちゃいおっさん



あなっしー



くまモン



まいちゃん

津波防災 ひろめ隊
2015-2016

わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを
多くのみなさんにひろめるお手伝いをします。

実施概要

福岡県京都郡苅田町について

苅田町は、北九州市と行橋市の間に位置する人口約3万6千人、面積46.6平方キロメートルの町です。東は周防灘に面して、国際貿易港・苅田港と広大な臨海工業地帯が広がっています。また苅田港沖には北九州空港があり、苅田港、東九州自動車道 I.C. と併せ、陸・海・空の交通結節拠点となっています。

一方、西はカルスト台地平尾台に連なり、国の天然記念物青龍窟や広谷湿原など豊かな自然があります。市街地には邪馬台国伝説にまつわる三角縁神獣鏡を出土した国指定の石塚山古墳や御所山古墳をはじめとした多くの古墳や遺跡も点在しています。

こうした自然・文化・歴史や産業が調和し、充実した交通インフラがもたらすネットワークを生かして、人・もの・情報・文化が交流するまちづくりを進めています。

出典：苅田町ホームページ



訓練概要

■訓練想定：11月5日午前10時に、南海トラフを震源とするM9.1の大規模な地震が発生、苅田町では震度5強を記録。地震発生直後から大津波警報が発表された。苅田町は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置し、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。苅田町の沿岸地域では、最大約4mの津波が押し寄せ浸水等の被害が発生した。

■実施日時：平成27年11月5日（木）10：00～12：20

シェイクアウト訓練、津波避難訓練

情報伝達訓練

10：00～10：40

救出救助訓練・物資配給訓練

11：00～11：30

（ヘリ訓練を含む。）

炊き出し訓練

11：00～12：00

津波防災啓発イベント

11：40～12：10

■主 催：内閣府、苅田町（共催：福岡県）

■参加者数：約7,700名

■参加機関：各地区自主防災組織、地元企業、行橋警察署、苅田町役場消防本部
陸上自衛隊第41普通科連隊、国土交通省九州地方整備局
苅田港務所、海上保安庁苅田海上保安署
馬場・南原・与原・片島小学校、苅田・新津中学校
苅田みどり幼稚園

訓練報告

当日の訓練内容

10:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、地域住民、企業、学校の方々が、それぞれの場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施の後、各々示された津波避難場所へ避難、避難後の点呼を実施した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



11:00～ 救出救助訓練

倒壊した家屋からの人命救助、負傷者のヘリ搬送、消防エアテントへの負傷者の収容等、一連の救出救助について、自衛隊及び消防が連携した展示型訓練が行われた。

▼負傷者のヘリ搬送



▼負傷者の収容



11:00～ 物資配給訓練

陸上自衛隊ヘリにより救援物資が空輸され、その救援物資を訓練参加者が地上搬送して避難場所に配給する訓練が実施された。

▼ヘリ空輸



▼地上搬送



11:00～ 炊き出し訓練、11:40～ 津波防災啓発イベント

大熊公園において、陸上自衛隊炊事班がアルファ米を炊き出し、訓練参加者に試食として配食された。また、並行して地元のゆるキャラやアイドルが登場する防災啓発イベントが実施され、多くの町民、生徒、幼稚園児が津波避難ポーズを体験する等、地震・津波防災に関する意識の高揚が図られた。

▼炊き出し訓練



▼啓発イベント

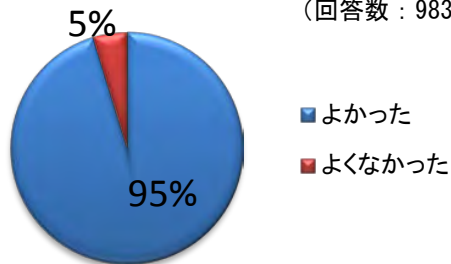


今後に向けた課題

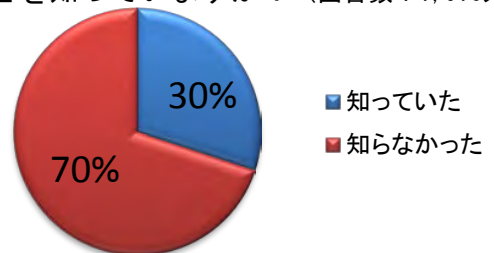
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：1,027人）

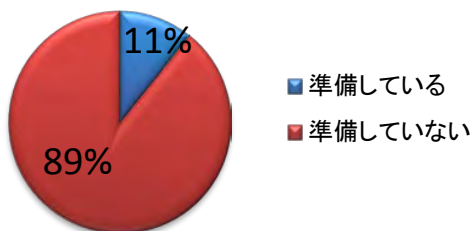
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：983人）



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：1,016人）



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等を準備していますか？（回答数：994人）



訓練の評価

訓練当日は、天候に恵まれ、小学生、中学生、幼稚園児を含め企業や地域住民等を合わせ約7,700名（防災関係機関を除く。）が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、内閣府・荻田町長の訓練講評の後、住民に対しては訓練場所において、小学生・中学生は学校に戻ってアンケートに記入し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。

この結果、「定期的に1か月に1回くらい実施してほしい」、「自衛隊・消防の参加もあり、いっそう防災意識が高まった。」、「規律正しく手際よい速い動作は、日頃の厳しい訓練から生まれたものと感動し、力強さを感じました。」という評価の一方で、次のような提言や指摘が出された。

- 体験することが大事（展示訓練の見学やシミュレーションだけではいざというときに行動が遅れる。）
- 最悪の条件を想定した人員点呼の方法、老人・病人や寝たきりの人を坂の多い町としてどのように運ぶかといった検証・訓練が必要
- 無線放送は聞こえない。他にサイレンとか良く聞こえる他の方法を利用すべし

平成27年度内閣府 地震・津波防災訓練 【沖縄県与那原町】

実施報告書 (概要版)



実施概要

沖縄県与那原町について

与那原町は沖縄本島の東海岸南部に位置し、県都那覇市から9kmの地点にあり、東南に南城市、西に南風原町、北に西原町と3市町村に隣接しています。

人口は約18,900人、面積は5.18km²、東西に4.3km、南北に2.1kmの長方形をなしており、東南の雨乞森(133m)、北西にそびえる運玉森(158m)にだかれ前方に中城湾を望む海岸線にのびた平坦地にある沖縄県で2番目に小さな街、「太陽とみどり、伝統と優しさを未来へつなぐ海辺のまち」です。

気象条件は、亜熱帯性気候で、変化に乏しく、年平均気温は22.3度、年間降水量1,688mmで、春から夏にかけて特に雨量が多く、夏から秋にかけては台風が襲来します。



参照：与那原町ホームページ

訓練概要

- 訓練想定：11月の平日10:00に大規模な地震が発生。10:03には、沖縄県全域に大津波警報が発表された。与那原町は地震発生後、直ちに地域住民に対して、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。10:27に与那原町沿岸部に大津波が押し寄せ、甚大な被害が発生。一部地域では火災も発生し、被害が拡大している模様。
- 実施日時：平成27年11月5日（木）10:00～15:30
 - シェイクアウト訓練、津波避難訓練 10:00～11:00
 - 情報伝達・安否確認訓練 10:00～11:00
 - 防災講演会 13:30～14:00
 - 訓練全体反省会 14:10～15:30
- 主催：内閣府、沖縄県、与那原町
- 参加者数：5,277名
- 参加機関：各地区の自治会・自主防災組織、与那原小学校・与那原東小学校・与那原中学校・知念高校・沖縄女子短期大学、幼稚園・保育園・学童クラブ、福祉施設、地元企業、警察、消防・消防団

訓練報告

当日の訓練内容

10:00～ シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取り組みに重点を置いたシェイクアウト訓練を、訓練参加の住民や各学校・幼稚園・保育園、福祉施設等で行い、緊急地震速報認知時や発災時の行動について確認した。

▼シェイクアウト訓練



10:03～ 津波避難訓練

自主防災組織が主体となって各地区で、「自助」と相互に助け合う「共助」の取り組みに重点を置いた津波避難訓練を町内全ての一時避難場所で行い、発災から津波襲来までの避難行動について確認した。

▼みんなで協力して避難



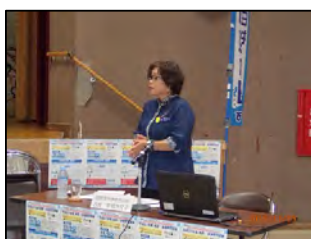
▼雨中の避難訓練



13:30～ 防災講演会

与那原町社会福祉センターにおいて、「地域防災コミュニティの育成」をテーマとして、日頃から準備すべき地域活動や自主防災組織の役割と今後の活動の方向性等について、県内の自主防災組織代表者による講演会を実施した。

▼講演中の講師



▼聴講する住民



14:10～ 全体訓練反省会

防災講演会終了後、与那原町社会福祉センターにおいて各地区で実施した「シェイクアウト訓練」や「津波避難訓練」等について全体訓練反省会を実施し、防災体制や訓練等についての意見交換を行った。

▼訓練の振り返り



▼全体訓練反省会

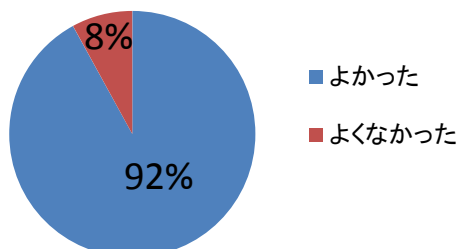


今後に向けた課題

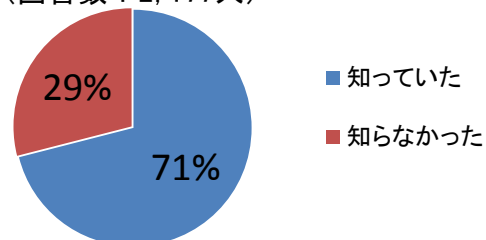
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：2,195人）

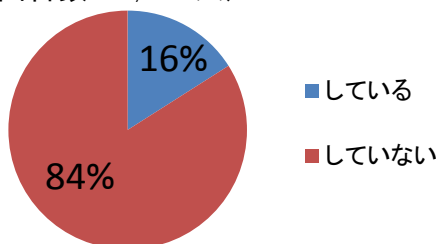
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：2,182人）



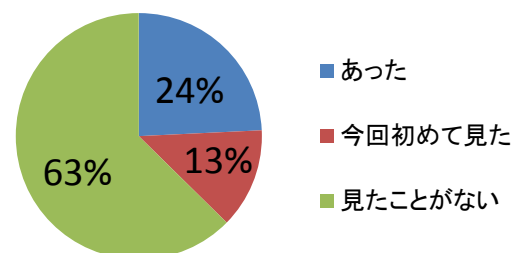
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？
（回答数：2,177人）



問 地震等に備えて、食料・水・非常用持出し袋等を準備していますか？
（回答数：2,170人）



問 津波ハザードマップを見たことがありますか？（回答数：2,170人）



訓練の評価

訓練当日は、天候が悪い中、小学生等の多くが垂直避難の訓練となったが、生徒・児童・園児や地域住民等5,277名、町職員や関係機関を合わせ約5,400名が、終始熱心かつ真剣に訓練に取り組んだ。

訓練実施後、各地区の代表者が一堂に会しての訓練全体反省会における意見、内閣府・与那原町長の訓練講評、職員等の所見、地域住民や児童・生徒等のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。

この結果、「いい訓練だった」、「地震がきたら、先ず高いところへ逃げようと思った」という評価の一方で、次のような意見もあった。

- 今後は、老人、幼児等の避難を手伝う訓練や、階段を使えない人を避難させるための訓練が必要である。また、今回の訓練では雨天のため一部垂直避難に変更したが、夜間も含め、各種の条件下での訓練も必要訓練である。
- 今回は平日に訓練を行ったが、子供たちとともに家族や地域の人達も一緒に多くの人が参加できるように休日の訓練も必要である。